

問われるヒロシマ NO WAR NO NUKESの旗を今こそ高く！

G7広島サミットは、核兵器によって平和が保たれるという「核抑止」の主張を被爆地広島から世界に発信してしまいました。それも、広島選出の岸田首相によって「広島ビジョン」として発表されたのです。サミット前には広島市の児童生徒が学ぶ「ひろしま平和ノート」から「はだしのゲン」や第五福竜丸の記述が削除されました。サミット後には広島市の平和公園と米国ハワイのパールハーバー国立記念公園の姉妹協定が、松井一實市長と米国のエマニュエル駐日大使によって、突然調印されました。「和解」や「未来志向」という言葉が松井市長からしきりに語られています。背景には、米国の要請によって大軍拡を進める岸田政権の強い意思があるように私たちは思います。「戦争できる国づくり」政策が露骨になってきた2023年の8月6日、世界各地で今も続く核被害の実態も学び、私たちは今何をすべきなのか、ともに考え、行動を起こしましょう。

日時：8月6日(日) 14:00～16:30

会場：広島弁護士会館 3階大ホール

内容：講演1 14:10～

「世界の核ヒバクシャのネットワークに
被爆三世アーティストとして関わる」

川野 ゆきよさん (アメリカ在住アーティスト)



講演1 14:10～

川野 ゆきよさん

祖父が爆心地から近距離の中国電力本社(中区小町)で被ばく。数少ない生存者。現在被ばく三世のアーティストとして米国オレゴン州で活動中。Oregon PSR(社会的責任を果たす医師団・オレゴン支部)の諮問委員会メンバーとして反核運動に携わる。パーモント美術大学で修士号取得。作品はアメリカ、日本、オーストラリアで展示されている。全米各地の大学、研究所で講演。

講演2 14:40～

「広島・長崎の役割とは？
—広島G7サミットにあたって考えたこと—

山口 響さん (長崎の証言の会)



講演2 14:40～

山口 響さん

1976年、長崎県生まれ。市民団体「長崎の証言の会」で2014年より証言誌編集長を務める。長崎大学などで非常勤講師。首都圏在住時にはNPO法人「ピースデポ」にも関わった。共編著に『原爆後の75年——長崎の記憶と記録をたどる』(書肆九十九)など、監訳書に『核兵器禁止条約の時代——核抑止論をのりこえる』(法律文化社)など。

報告

「シンコロブエ鉱山の歴史と現状
広島・長崎の原点を見つめる」



コンゴ・シンコロブエ
ウラン鉱山の様子

形式：対面参加・オンライン併用

参加費：500円

申込み：対面参加ご希望の方は直接会場にお越しください。(申し込み不要)

オンライン参加ご希望の方は、QRコードまたは

<https://forms.gle/rERdiwZrhgDueouca>

の申し込みフォームに必要事項を記入して送信してください。



核兵器廃絶をめざすヒロシマの会 (HANWA) 代表：足立修一

730-0013 広島市中区八丁堀5-22 メゾン京口門404号室 足立・西法律事務所

問い合わせ 090 9060 1809 (藤元) hiroshimahanwa2021@gmail.com